

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1070300650 | | |
| 法人名 | 株式会社ファミリーケアシステム | | |
| 事業所名 | グループホーム ケアホーム家族の家境野 | | |
| 所在地 | 群馬県桐生市境野町2丁目1459番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成25年1月10日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に、最後までその人らしく生活できる様介護させて頂いており、看取りまで行っている。入所期間10年を超える方が3人おられ励みにもなっている。特に楽しみと健康維持の両立が可能な「食べる事」を大切にしている。食材にもこだわり、利用者と一緒に畑を作り野菜作りも行っている。調理に対しても職員で話し合い向上できる様心掛け、その方に合った状態での提供をしている。また利用者のニーズに合わせて少人数や全員での日帰りや泊旅行を実施し、より個別性を高めたケアを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaigokensaku.jp/kanri/10/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | サービス評価センターはあとらんど | | |
| 所在地 | 群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階 | | |
| 訪問調査日 | 平成25年1月28日 | | |

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設10年を迎え、利用者が重度化し、入院した場合には退院時まで居室を開けておきたいという思いと経営面との葛藤で新たな悩みが生じている。しかし、事業所内にはゆったりした時間が流れている。利用者には気負うことのない自分の日常と自然な居場所がある。職員は開設当初より利用者向き合う時には、仕事という概念を外すために、向き合うときは「仕事をするな」と教えられ、受け継がれている。利用者のペースで生活し、利用者が主役の事業所である。生きる事と食べる事を大切に、職員は黒子に徹し、利用者に寄り添うように一日を過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎月運営会議を開催し理念に基づいた運営状況を確認している。 | 「事業所の主役はだれか」ことあるごとに管理者は職員を指導している。利用者の尊厳と地域との関係性を大事にした理念が作成されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 新年会・地域の清掃・夏祭り等に利用者と共に参加したり、地域の会議等にも参加している。 | 地域の役員さんが協力的である。夏祭り・公民館利用等で係わりがあり。公民館の館長に運営推進会議のメンバーを依頼している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の会合等で認知症の主な症状等を話したり、高齢者にとって気を付けなければならない事を話したりしている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1回の会議の中で、状況報告を行い意見を頂いている。 | 定期的に行われ、事業所の状況報告・行事報告がされている。家族代表・区長・町内会長・公民館館長・市議員等がメンバーになり意見交換がされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 地域ケア会議に参加して地域の高齢者の状況を把握し、特に認知症で困っている方の支援を申し出ており、実際に入所に結びついている。 | 地域包括支援センターが主催し、地域の3~4事業所の管理者・ケアマネジャーが集まり情報交換をしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 毎月の運営会議やカンファレンス等で話し合い、確認等を行っている。 | 玄関の施錠を含めて身体拘束は行っていない。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に行っている会議やカンファレンスで話し合う場を持っており、常に意識を持って業務に当たるよう心掛けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 権利擁護に関する研修に参加したり、実際に利用者の中で、後見制度を利用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約に関しては十分な説明の機会を設けており、理解して頂くようにしている。介護保険の改正時には、家族の方に集まって頂き説明会を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 定期的に家族が来られる機会を設け、本人と面会していただき、その様子を必ず聞き取る機会を持っている。 | 家族には面会時に意見を聞いている。本人には直接聞いている。食べたい物の意見が出たらメニューを変更したり、臨機応変に反映させている。月に1度は家族が来訪している。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月1回の運営会議やカンファレンスのほか、定期的に職員との面談を行っている。 | 担当制をとり、利用者に関する意見が出ている。職員の福利厚生費が賄えない事情があり、国保に切り替えることになったが、納得してもらっている。職員は変わりなく利用者により添い、支援をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修には積極的に参加するよう話している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 連絡協議会に入会し事例発表やレベルアップ研修に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | センター方式を活用し、利用者の声を聴きながら安心して生活できる様努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | センター方式を活用し、家族の声を聴きながらどの様に取り組んでいけるか、話し合いを行っている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人・家族の話を聴きながら提供できるサービスの説明を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 食事作りや後片付け・掃除等を一緒にやりながら日常生活を送るよう心掛けている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 定期的に家族が来られる機会を設け、本人と面会していただいたり、状態を話したりする機会を持っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 本人の行きたい場所に同行したり、馴染みの人に面会して頂けるよう働きかけている。 | 親戚や子供達の所に出かけたり、定期的に図書館を利用している。97歳の弟さんが来訪してくれているが、利用者も家族も入居以来年月が経ち、面会が少なくなっている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日中は全員居間で過ごす事が多く、職員が間に入るようにしてコミュニケーションを図れるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 状況に応じて連絡を取っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 希望が聴ける方には聞き取り、センター方式を活用しながら家族に聴いたりして、職員全員で検討している。 | 担当制をとり聞ける人には要望を聞いている。また、入居時にセンター方式を用い家族からの情報等で本人の意向を共有している。その後はカンファレンスと運営会議時にプランを立て思いを把握し共有している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | センター方式を活用し、本人・家族から話を聴く事で把握できる様努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の記録やカンファレンスでの情報交換・話し合いにより、把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 月1回の運営会議やカンファレンスのほか、その都度話し合い行ってプランに反映させている。 | 毎月モニタリングを行い、基本的には6ヶ月に1度プランを作成している。プランは記録をしやすく介護記録にはさんである。 | 毎月のモニタリングを参考に、現状に即したプランを3カ月に1度作成してみたいかがか。 |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の申し送りの中で情報を共有し、プランを毎日の記録の中にファイルし常に把握・見直しを出来るようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 通院や入院・退院時の支援等必要に応じて行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議に公民館長・地域包括支援センター職員・町内会長が参加し関係を強化している。利用者が図書館を利用。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入所時に必ず確認しており、特に緊急時の対応については搬送先の病院を確認している。 | 入所時にかかりつけ医の継続や事業所の協力医に変更するかどうか説明して選択してもらっている。訪問歯科支援がある。職員が受診支援をしている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 週1回定期的な訪問看護の利用のほか緊急時は24時間対応して頂いている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 地域連携室との情報交換や定期的に面会して、その都度状態の把握に努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 状況の変化に応じて説明し、医師・訪問看護師と情報を共有しながら話し合い、方針を確認している。 | 方針があり、段階的に話し合うことを共有している。関係者の協力が得られれば重度化や終末期の支援を行い、5人の事例がある。訪問看護とは24時間、365日の連絡体制がある。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 会議等で勉強会を行っている他、救命講習に参加している。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署立ち会いのもと、避難訓練を定期的に行っている。その際地域住民にも参加をお願いしている。運営推進会議でも定期的に話し合っている。 | 年2回の消防署立ち会いのもとで昼夜想定の利用者と職員、地域住民が参加した訓練を行っている。備蓄として水を3日分を用意している。 | 自主訓練を増加して、利用者と職員が避難技術を身に付けられるようにしてほしい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | さりげないケアを心掛け、言葉掛けには注意している。 | 職員がささやいたり、顔を見ながら利用者と話している。気分転換に外でのキャッチボールや音楽鑑賞・テレビや犬とのふれあい等の支援をしている。利用者同士の相性や入浴の順番に配慮している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 細かな声掛けにより意思確認をしたり、選べる様提案し、表情を読み取る事で把握している。食べたい物があるときは必ず献立に反映している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 大まかな1日の流れは決まっているが、必ず利用者の意見を聴くようにしている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 定期的に訪問理容を利用し、服等は家族にお願いして一緒に買ってきたりして頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 決まった献立は作らず、食べたい物を事前に聴き出来るだけ反映するようにしている。時には急きょ外食にみんなで出かける時も。 | 食事の時間は大切と認識し、美味しく作り、ゆっくり時間をかけて食べてもらうことを職員は共有している。訪問日はパンが食べたいという希望があり焼き立てのパンが食卓に上がった。ミキサー食は常食を用意し本人の前で箸の進み具合で作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ひとりひとりに合った量とバランスで提供させて頂いている。個々に記録して、どのくらい摂取出来ているか把握している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、個々に合ったブラシを用意して口腔ケアを行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ひとりひとりのパターンを把握し、絶えず記録しながら、状況の変化に応じて対応している。基本的には極力オムツをしない方針である。 | 自立者を含め確認やチェック表を用いてパターンを掴み支援している。オムツ・パット等を工夫しながら快適に過ごせる支援をしている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 散歩や犬の散歩にも同行して頂き運動する機会を設けている。乳酸菌や植物繊維の摂取に心掛けている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 最低1日おきに入って頂けるよう声掛けを行い、時間帯は夕食後でも対応している。 | 毎日入浴出来る体制がある。夕方からの支援を基本に夕食後の入浴支援もしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 状態により声掛けを行って、本人が希望すればいつでも臥床して頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 常に状況を医師に上申している。カンファレンス等で服用している薬の勉強会を行っている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 犬の世話や洗濯物を干したり取り込んだり、畑と一緒に作ったりしている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 日々の買い物の手伝いをして頂いたり、散歩に出かけたり、家族と一緒に外食に出かけたり、コンサートに出掛けたりしている。 | 食べたい物を買って出かけている。コンサート鑑賞・老神温泉への一泊旅行や家族との外食等で出かけている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 希望がある時は買い物時に買えるよう援助している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話をかける際、必要があれば職員が代わってかけている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間にはリクライニングチェアを置いたり、テレビの音が全体に響かないようにしたり、空気清浄機を設置してトイレにも強力なファンを設置して臭いが拡散しない様工夫している。 | 理念に掲げる「あたりまえの普通の生活」を送る工夫がされている。テレビの音が一部のみに聞こえやすいようにスピーカーがある。広くはないが不快な臭いが無く、職員の大きな声も聞こえない。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 独りになるのは難しいが、思い思いに過ごせる空間づくりに努めている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族には出来るだけ本人が使っていた物を持ってきて下さる様お願いしている。 | 畳の広縁付の部屋に布団やベッド等、部屋の主の身体状況に合わせたものが使用されている。見慣れた日本家屋の作りである。使い慣れた物を持って来てもらい、心の安定に結びつけている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 普通の家で暮らす事で、住み慣れた落ち着いた空間を提供できる様にしている。基本的にバリアフリーにはしていない。 | | |